

2021 年度

わけん保育園 相模原駅前

自己評価

## 1. 乳幼児期の教育・保育の役割

乳幼児期は、保護者や周囲の人々との関わりの中で守られているという安心感・信頼感、それらからくる情緒の安定に支えられて、日常生活や遊びの中で基本的な生活習慣を身に付け、規範意識の芽生え、探求心や好奇心、豊かな創造力が育まれるなど、生涯にわたる人格形成の基礎を培うことができる重要な時期です。

保育園に通園している子ども達は、一日の大半を保育園で過ごしていることから、保育園では以下の三つのことが必要となります。

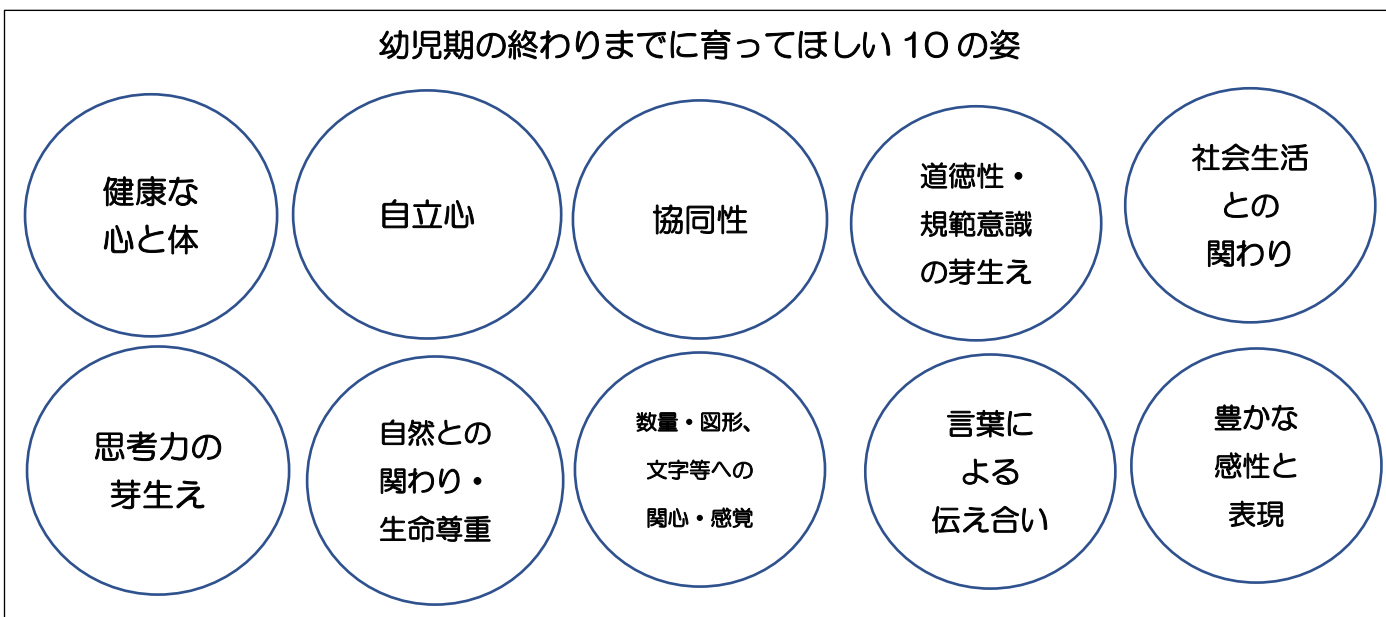
- ① 居心地がよく安全・安心な環境を整える。
- ② それぞれの年齢や個々の発達に応じて活動ができるような、教育及び保育を行う。
- ③ 子ども達の健やかな成長を保障する。

したがって、保育園では、子ども達が様々な人と出会い、関わり、心を通わせながら成長していくために、

- ☆ 乳幼児期にふさわしい、生活の場を豊かにつくりあげていく役割や機能を大切にする。
- ☆ 保育園で過ごしている子ども達の成長を保障するために、養護と教育を一体的に展開する。
- ☆ 子どもの傍らに在る保育者が子ども達の心をしっかりと受け止める。

これらのことが求められます。

国では、幼保小中高の一貫した教育を実現するために、幼児期の終わりまでに育てほしい姿として、2030年の社会と子ども達の未来を見据え、以下の10項目をあげています。



これらは、保育者や大人から教えられて育つものではなく、子ども達の発達や学びの連続性を踏まえた保育が必要となります。また、この時期には、自己の感情や行動のコントロール、粘り強さや自尊心等といった、いわゆる非認知的能力を育むことが望まれます。また、現在と未来に向け、子ども達が自らの人生を拓いていけるよう、一人ひとりの可能性を伸ばし、確実に育成していくことも求められます。

乳幼児期の体験を通して培われた子ども一人ひとりの「見方・考え方」は小学校以降の教科等の「見方・考え方」の基礎となるとともに、これらを統合化することの基礎となります。乳幼児期に体験を通して育まれた「見方・考え方」が、小学校以降の教科等の学習を支えていると言えます。教科学習の下支えとなる「見方・考え方」を育むのは、子ども一人ひとりの家庭環境や生活経験を大切に、それぞれの子供が親しんだ具体的な物を手掛かりにしてイメージを形成したり感じとったりできる質の高い保育です。そのため、このような子どもの成長を助け乳幼児期の教育及び保育を担うことができる保育者が求められます。

保育者は、資格や免許を有していても、それだけで十分な資質があるとは言えません。乳幼児期の子どもに関

わり、深い影響を与える保育者は、常に自らの実践を振り返り、研鑽を重ねてその専門性を磨きつつ、専門職としての職務を果たすことが求められます。

乳幼児期の豊かで多様な体験等が、小学校以降の「生きる力」である「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」に繋がるとともに、子ども一人ひとりを支えていくであろう「生きる力」の基礎を培っています。保育者一人ひとりが、子ども達とともに創り出している教育・保育の営みが、子ども一人ひとりの「生きる力」の基礎に繋がっているのです。

子ども達の最善の利益のために必要なものは何か、乳幼児期の今、必要な保育はどのようなものなのか、自ら学び続けることによって、専門職としての保育者の資質を高めていく必要があります。

## 2. 乳幼児期の発達の特徴に合わせた保育と、保育者に求められる資質・指導力

乳幼児期における保育は、発達の特徴から『子どもの自発的な活動である遊びや生活の中で、美しさを感じたり、不思議さに気付いたり、できるようになったことを使いながら、試したり、色々な方法を工夫したりすることを通して育む』ことが重要です。

こうした保育を確実にを行うために、保育者として専門的な資質・指導力を常に磨いていくことが求められます。

### 保育者として身に付けたい資質・指導力

#### [ 指導力向上 ]

- ① 子どもの主体的な学びを保障するための環境構成を行う力
- ② 一人ひとりの子どもの特性や発達、ねらい等に適した援助を行う力
- ③ ねらいに沿って指導を適切に展開し、改善する力
- ④ 地域の資源を活用し、指導の充実を図る力
- ⑤ 保護者や必要な機関と連携を取りながら一人ひとりの育ちを支える力
- ⑥ 発達や学びの連続性を見通し、指導する力

#### [ 園の運営力・組織貢献力 ]

- ⑦ 学級経営に関わる事務を的確に処理する力
- ⑧ 園務分掌とその内容を理解し、企画・立案する力
- ⑨ 上司や同僚と協働して、円滑に園務を遂行できる力

#### [ 危機管理 ]

- ⑩ 子どもが安心して過ごすことができる施設や遊具等の安全な環境を整える力
- ⑪ 家庭や地域と連携し、子どもが危険から身を守り、安全に行動できるように指導する力

#### [ 保育者としての姿勢 ]

- ⑫ 保育者として自分の課題を発見し、自己研鑽していく力
- ⑬ 乳幼児期の発達や学びを踏まえた教材の研究をする力

#### [ 親育ち支援力 ]

- ⑭ 在園児の保護者に対して、子育てを支援する力
- ⑮ 地域の子育て家庭を支援する力

保育者の資質・能力をさらに高めていくためには、個々の保育者が自身の目指す保育者像の実現に向けて、自らが主体的にキャリアデザインしていくことが大切です。

まずは、乳幼児期の発達の特徴と、その特性に合わせた保育のあり方について、正しく理解することが求められます。基本をしっかりと捉えながら、質の高い保育を求めていきましょう。

### 3. 乳幼児期における教育及び保育

乳幼児期の子どもは、生活や遊びの様々な場面で、主体的に周囲の人や物に興味をもち直接かかわっていきこうとします。このような姿は『学びの芽生え』と言えるものであり、生涯の学びの出発点とも言えます。

乳幼児期の特性を踏まえ、これからの教育及び保育の展開において、遊びを通しての総合的な指導を通して、『知識・技術の基礎』『思考力・判断力・表現力等の基礎』『学びに向かう力・人間性』を一体的に育てていくことが重要です。そのため、保育者は乳幼児期の発達特性を十分に理解して、子ども一人ひとりの発達の実情に即した教育及び保育を行うことが大切です。

#### (1) 乳幼児期にふさわしい生活を展開するために

##### ①子どもとの信頼関係を結ぶ。

- ・乳幼児期は、自分の存在が周囲の大人に認められ、守られているという安心感から生じる安定した情緒が支えとなって、次第に自分の世界を拡大し、自立した生活へと向かっていきます。
- ・子どもは、保育者に受け入れられ、見守られているという安心感を持つことが大切です。
- ・保育者から適切な支援を受けながら、子どもが自分の力で活動に取り組む体験を積み重ねることが大切にされなければなりません。

##### ②興味や関心に基ついた直接的で具体的な体験が得られる生活にする。

- ・子どもの生活のほとんどは、興味や関心に基ついた自発的な活動からなっています。
- ・この興味や関心から発した直接的で具体的な体験は、子どもが発達するうえで豊かな栄養となり、様々な力を獲得していきます。
- ・日々の生活において、子どもが主体的に環境と関わり、十分に活動し、充実感や満足感を味わうことができるようにすることが大切です。

##### ③友達と十分に関わって展開できる生活にする。

- ・幼児期には、自分以外の幼児の存在に気付き、友達と遊びたい気持ちが高まり、友達とのかかわりが盛んになります。
- ・他の幼児と関わることを通して、幼児は自分の存在を確認し、自己と他者の違いに気付き、他者への思いやりを深め、自律性を身に付けていきます。
- ・日々の生活の中で、幼児が友達と十分に関わって展開する生活が大切です。

#### (2) 一人ひとりの発達特性に応じた指導を行うために

子どもの発達の姿は、大筋で見れば、どの子も共通した過程をたどると言われています。そのため、子どもを指導する際に、保育者はその年齢の多くの子どもが示す発達の姿について心得ていることは、指導の仕方を大きく誤らないためには必要です。しかし、それぞれの独自の存在として、子ども一人ひとりに目を向けると、その発達の姿は必ずしも一様ではないことが分かります。

子ども一人ひとりの家庭環境や生活経験の違いから、人や物事への関わり方、環境からの刺激の受け止め方が異なっています。そのため、保育者は子どもが自ら主体的に環境と関わり、自分の世界を広げていく過程そのものを発達と捉え、子ども一人ひとりの発達特性(その子らしい見方、考え方、関わり方など)を理解し、その特性やその子が抱えている発達の課題に応じた指導をすることが大切です。

#### (3) 乳幼児理解に基づく環境の構成を行うために

環境の構成については、子どもの生活する姿に即して、その時期にどのような経験を積み重ねることが必要かを明確にしたうえで、そのための状況やモノや人、場や時間、保育者の動きなどに関連付けて作り

出していくことが大切です。

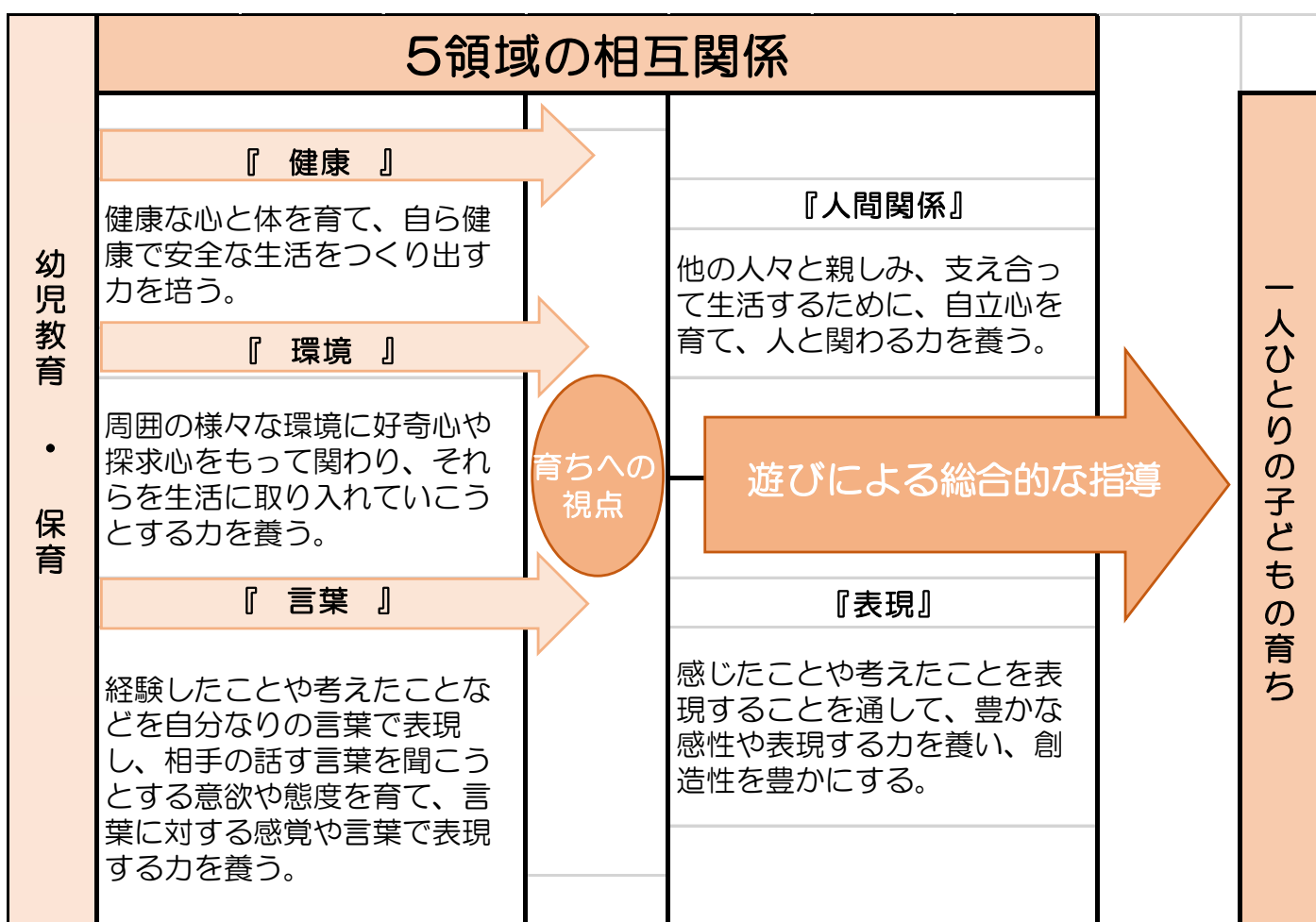
子どもが安心して周囲の環境に関われるような雰囲気のもと、興味や関心がわいてきて、自ら次々と活動を展開していくことができるように、配慮され構成された環境が大切です。

このような環境を構成するためには、物的、人的、自然的、社会的など、様々な環境条件を相互に関連させながら、子どもが主体的に活動を行い、発達に必要な経験を積んでいくことができるような状況を作り出すことが大切です。

乳幼児期は、自分の生活を離れて知識や技能を一方的に教えられて身に付く時期ではなく、生活の中で自分の興味や欲求に基づいた直接的・具体的な経験を通して、人格形成の基礎となる豊かな心情物・物事に自分から関わろうとする意欲や健全な生活を営むために必要な態度などが培われる時期です。

保育園での保育は、遊びを通して5領域のねらいを総合的に達成することにより、一人ひとりの幼児の育ちを実現していきます。

幼児教育における5領域のイメージ図



そのため、子ども達の健やかな育ちを保障し、より良い保育を展開していくために、乳幼児理解に基づく指導計画の作成、環境の構成と活動の展開、乳幼児の活動に沿った必要な援助、反省や評価に基づいた新たな指導計画の作成と言ったPDCAサイクルの中で自らの保育を多様な観点で振り返りながら、継続的に保育の質を向上させていくことが必要です。

乳幼児期の発達特性に応じた質の高い保育の実践や小学校以降の教育への接続を意識した取り組みが図れるよう、以下の保育理念、保育方針、保育目標を全職員が共有し、チームとして実践していきましょう。

※ 保育理念：和顔愛語の精神をもとに、笑顔で明るく心身ともに健康な子どもを育む。

※ 保育方針：主体性、協調性のある子どもを育む。

※ 保育目標 [ 子ども ]

- ・安心できる環境の中で、子ども達を「待たせない保育」を進める。
- ・子ども達自身が「やりたいこと」ができる環境を作る。
- ・「その子らしさ」を尊重し、子ども自身が大事にされていると実感できる保育を進める。

※保育目標 [ 保護者 ]

- ・子どものことを安心して伝え合える環境を作る。
- ・誰とも比べることなく子どもの育ちを喜び合い、ありのままの子どもが素敵であることを共有する。

#### 4. 保育者としての資質・指導力を高めていくために

子どもにとって遊びは重要な学習です。子どもの主体的な活動を確保し、子どもが自らの力で発達に必要な経験が得られるようにしていくことは、保育者の使命であり、責務です。

そのため、保育者には、子どもの発達や生活の流れを見通した指導の計画を立てることが求められます。また、子どもの発達の流れに応じた環境構成や、子ども一人ひとりの活動に応じた援助など、きめ細かな指導が必要となります。

こうした指導力を身に付けるためには、自らの実践を振り返ることが大切です。ただ漠然と実践を振り返るのではなく、自分の身に付いた力を意識した評価をしていきましょう。そうすることで、自己課題をより正しく把握できると共に、保育者としての資質や専門性を高めていくことができます。

##### (1) 実践の振り返りから自己課題の発見へ

保育者一人ひとりの実践の振り返りと、園全体の保育の振り返りができるよう、『自己課題発見シート』として、いくつかの視点を示しています。

これは、子どもの育ちを評価するものではなく、保育者としてのご自身の実践に向かう姿勢を評価するものです。また、『自己課題発見シート』での評価結果がイコール人事考課の結果となるわけではありません。感じたままに評価することを大切にしてください。良い評価が付くこと以上に、なぜその評価にしたのかを考えることが大切です。評価の理由を考えることで、具体的な改善点や目標が見えてくると思います。

①「自己課題発見シート」の他②「ステージ別の資質・指導力チェックシート」を活用し、自ら発見した課題を基に、③「自己目標設定シート」で目標を設定し、④「自己目標共有シート」を作成し、その目標を共有しましょう。そして、目標達成に向けて具体的にどのような手立てをとっていくのかを探り、確認して取り組み、その進捗状況がどうなのかなどについて、総合的に人事考課に加味していきたいと考えています。

園内で個々の課題を共有するとともに、お互いの違いを大事にしながら、求められる乳幼児期の保育について話題にし、考えることが、乳幼児期の発達の特性への理解を深めたり、具体的な実践の向上に繋がったりします。

『自己課題発見シート』は、実践の振り返りから自己課題を発見し、次の目標を常に考え実践しようとする保育者や園を助けてくれるものであると考えます。

## 5. 各キャリアステージに求められる資質・指導力（シート2）

ここでは、基礎・中堅・リーダー・管理職に分類して、各ステージに求める姿を示しています。保育者として成長していくためには、単に優れた保育技術を身に付けることを目指すのではなく、自分の未熟さや欠点を謙虚に受け止めながら、自ら学び続けることが大切です。自分のキャリアステージを意識し、身に付けることが望まれる資質・指導力を把握しながら日々の実践や研修を行っていきましょう。

キャリアステージ	基礎		中堅		管理職		
	新規採用	5年未満	中堅	リーダー	主任・副主任	園長	
各ステージ終了までに求める姿	保育者としての独り立ち		保育者としての資質を磨く		園全体を視野に入れる		
	基礎知識を身に付け、実践と結びつける。	見通しをもって保育ができるよう、実践の幅を広げる。	身に付けた知識や技術を生かし、実践力を高める工夫をする。	実践を通してモデルとなる様、全園的な視野に立った資質・指導力を身に付ける。	職員の人材育成を行うと共に、園長、主任を補佐して園の保育方針・目標に向けた取り組みを推進する。	園の運営方針を示して組織的な運営を行うと共に、地域や関係機関等と連携した取り組みを進める。	
資質・指導力		行動目標					
指導力向上に向けての自己診断	①子どもの主体的な学びを保障するための環境構成を行う力(環境の構成)	保育室を起点に環境を整え、日々の保育に必要な環境を整える。	子どもの動きや活動の展開を予測して、環境の構成、再構成をする。	色々な環境を生かしながら、実践を展開することを楽しんで行う。	他クラスや他学年の保育の展開を意識して、園全体の環境を視野に入れて豊かなモノや人との関わりを生み出す実践を行う。	各職員の意見を反映しつつ、協働して乳幼児の発達を保障する園環境を作る。	地域や法人、園の実態を踏まえ、より良い保育の実現に向けて、環境の維持改善に努める。
	②一人ひとりの子どもの特性や発達、ねらい等に適した援助を行う力(援助)	日々の反省・記録や、先輩の実践に触れることで、一人ひとりの特性に応じる指導の基本的姿勢を身に付ける。	一人ひとりの特性や発達を理解し、その援助を工夫する。	個と集団の育ちを意識して、一人ひとりの特性や発達を捉え、必要な援助を行う。	各職員のモデルとなり、子ども一人ひとりに応じた適切な援助を行う。	各職員が一人ひとりに応じた援助を適切に行えるよう指導する。	各職員が一人ひとりに応じた援助を適切に行えるよう、資質向上のための学び合いの場を作る。
	③ねらいに沿って指導を適切に展開し、改善する力(指導計画の作成と保育展開・評価)	子どもの実態を踏まえて、ねらいと共に指導計画を作成し、保育を展開する。	反省・記録をもとに、指導計画を構想し、発達の見通しをもった保育を展開する。	日々の実践を通して、年間指導計画のねらいや内容、環境構成、援助を見直していく。	園の行事などで実践の中心的な役割を果たしながら、年間指導計画を見直していく。	職員との話し合いに積極的に参加しながら、年間指導計画の評価・改善に務める。	各職員が全体的な計画を踏まえてより良い実践ができる園環境を作る。

指導力向上に向けての自己診断	④地域の資源を活用し、指導の重自治を図る力(地域との連携)	地域の自然などを取り入れた保育を展開しようとする。	地域の自然や文化を保育に活かす。	地域や法人の資源を生かし、自らの保育を豊かにしていく。	様々な機会を通して、子どもや保護者と地域とのつながりを深めていく。	園長、主任を補佐しながら、地域や法人の人的・物的資源を活用した園づくりを進める。	地域との信頼関係を築き、地域や法人の資源を活用した園づくりを進める。
	⑤保護者や必要な機関と連携を取りながら一人ひとりの育ちを支える力(関係機関との連携)	子どもの変化などを保護者に伝える。	子どもや保護者への対応について、他の職員と話し合いながら、園内で情報を共有する。	記録や評価を的確に行い、実態に応じた対応・クラス経営・協力体制づくりを行うため、専門的知識をもって関係機関と連携する。	園内の話し合いの中心的な役割を果たし、協力体制の推進役になる。	様々な関係機関の特性や業務内容について情報を得、職員と専門機関又は他の専門家との間に入って連携する。	必要に応じて関係機関と連携できる体制を整え、園全体の連携する力を高める。
	⑥発達や学びの連続性を見通し、指導する力(保・幼・小の連携)	それぞれの発達にふさわしい経験を踏まえた実践を知る。	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を意識して実践する。	小学校などとの円滑な接続の必要性を理解し、学びや発達を見通した計画及び実践を行う。		小学校などとの連携について職員と共に計画し、園長に提言する。	小学校などとの連携が円滑に行えるよう、園内外に積極的に働きかける。
親育ち支援力に関する自己診断	⑦在園児の保護者に対して子育てを支援する力(保護者への支援)	保護者にカウンセリングマインドをもって接し、話しやすい雰囲気作りに努める。	保護者との良好な関係を築き、必要に応じて相談しやすい雰囲気を作る。	保護者の相談を受容的に受け止め、適切な助言をする。	保護者同士の関係を作り保護者が育ち合う場を提供する。	園内で役割分担しながら、組織として保護者を支援するための役割を担う。	必要に応じて関係機関と連携しながら、組織として保護者を支援できる体制を整える。
	⑧地域の子育て家庭などを支援する力(地域における子育て支援)	園を訪れる地域の保護者に対して、気持ちの良い挨拶や温かい雰囲気で作る。	園を訪れる地域の保護者に対して、親しみをもって応じ、気持ちよく利用できるような雰囲気作りをする。	園の子育て支援の計画に基づいて実践し、園長、主任を補佐しながら子育て情報を発信する。		地域の実態を把握して園の子育て支援の充実に努める。	



園の運営力・組織貢献力に関する自己診断	⑨クラス経営に関わる事務を的確に処理する力(クラス経営)	クラス事務を通して担任としての責任を自覚する。	日々の記録を整理したり、提出書類を的確に処理したり、担任としての責任を果たしていく。	担任としてのクラス経営に関する責任を果たすと共に、他の職員の相談にのり、助言をする。		園全体を見通して各担任の事務処理等を確認し、効率化に向かって指導・助言する。	各担任が自信をもってクラス運営に当たられるよう、体制を整える。
	⑩園務分掌とその内容を理解し、企画立案する力(園務分掌)	組織の一員として自覚し行動する。	園務の一部を担い、園の組織についての理解を深め、役割に合った行動をとる。	園務についての理解を深め、後輩の指導をしながら組織の一員として園務の遂行に努める。	園務について理解を深め、より良い園運営に向けて遂行しながら改善を図る。	職員の関心や立場、負担等を踏まえて、園長、主任を補佐しながら、より良い園務の遂行に努める。	園の課題を踏まえて、園務分掌の改善を図る。
	⑪上司や同僚と協働して、円滑に園務を遂行できる力(職員間の連携)	自分の考えを伝えると共に、先輩からの助言を素直に受け止める。	自分の考えを伝えると共に、相手の立場を理解しながら仕事を進めていく。	同僚からの相談に応じて、適切な助言をする。	それぞれの立場を理解し、より良い実践になる様職員間の連携を図る。	園長、主任を補佐すると共に、職員と信頼関係を築き、職員に対して必要に応じて支援する。	職員一人ひとりの良さを生かし、職員間の連携が深まる体制づくりに努める。
危機管理に関する自己診断	⑫子どもが安心して過ごすことができる施設や遊具等の安全な環境を整える力(安全管理)	危機管理を理解し、マニュアルに沿った環境を整える。	園全体の危機管理を理解し、より安心して、より安全に生活できる環境を工夫し、改善に努める。		園長、主任を補佐し、危機管理のためのマニュアルを整備し、園内の体制を確立する。	危険を予測し、危機管理のためのマニュアルを整備し、園内体制を確立する。	
	⑬家庭や地域と連携し、子どもが危険から身を守り、安全に行動できるように指導する。	日頃から遊びや生活の中に安全や命を守るための要素を意識して取り入れ指導を行う。	家庭や地域と連携を図りながら、安全や命を守るために指導を行う。		園全体で安全教育が行われるよう、必要に応じて職員の指導、支援をする。	地域の実態に応じて子どもの安全教育や防災等について、職員や保護者と協働して取り組みを進める。	
保育者としての姿勢	⑭保育者として自分の課題を発見し、自己研鑽していく力(自己研鑽)	進んで研修に参加し、自らの課題を持ち、研鑽に努める。	自己課題をもって研修に参加すると共に、園内研修において後輩の考えと園の方針、目標を繋ぐ。		自己課題をもって研修に参加すると共に、園内研修において中心的な役割を果たし、質の向上を図る。	常に向上心をもって取り組み、園全体の動きを把握しながら職員研修のマネジメントをする。	一人ひとりの職員の自己研鑽の場を確保し、園全体の学び合う雰囲気を作る。
	⑮乳幼児期の発達や学びを踏まえた教材の研究をする力(教材研究)	子どもの育ちを理解し、一人ひとりの育ちに沿った遊具や用具を準備する。	子どもの、モノや人との関りを深めるための遊具や用具を工夫して活動を豊かにする。	個々の育ちに合った保育が展開されるための教材の準備をするるとともに、後輩の相談にも応じる。	他の職員と必要な教材について具体策を一緒に考え、助言・指導する。	教材研究や、やりたいことが実現できる教材の提案をするなど、各職員が教材研究を楽しむ雰囲気を作る。	園全体の教材に目を配り、必要に応じて指導・助言し、豊かな園環境を作る。

## 6. 4つのシートの活用方法

実施月	シート	実施方法	効果
2021 年度末	1	①評価理由を意識しながらチェックを行う。 ②大項目ごとに、自分の良さや課題、気付いたことについて記入する。	保育の基本を捉え直し、保育者として基本的な姿勢を確認できる。
	2		キャリアステージにおいて求められている力を把握、確認できる。
	3	①来年度の目標を設定する。 ②記入した内容を意識しながら実践する。	4月からの目標設定に基づく実践を意識して保育に取り組むことができる。
	4	シート1～3を基に各自でシート4を作成する。	目標を設定し新年度をスタートすることができる。
5月 11月	1	①評価理由を意識しながらチェックを行う。 ②大項目ごとに、前回からの伸び幅や課題について記入する。	前回との比較を行うことで、自身の保育の傾向を確認できる。
	2		求められる資質・指導力と現状を比較することで、自身の強みと弱みを自覚できる。
	3	①次回に向けた目標を設定する。 ②記入した内容を意識しながら実践する。	課題に基づくスモールステップを意識した目標設定ができるようになる。
	4	・5月：作成したシートを基に面接し、目標達成に向けた具体的な手立てを探る。 ・11月：5月の面接から取り組んだ内容を加筆し、そのシートを基に面接する。	目標達成に向けた具体的手立ての確認や、進捗状況の共有と、年度末に向けた取り組み方法などの確認と検討ができる。
2022 年度末	1	①評価理由を意識しながらチェックを行う。 ②大項目ごとに、1回目からの伸び幅や課題について記入する。	年度目標に基づく成果と課題を客観的に捉えられるようになる。
	2		求められる資質・指導力に対する現状と課題を把握することができる。
	3	2022年度の成果と課題をまとめる。	1年間の成果と課題を意識した実践の振り返りができる。
	4	シート1～3を基に各自でシート4を作成する。	目標を設定し新年度をスタートすることができる。

### (1) 個人の資質・指導力の向上に向けて

子どもが生み出す遊びを大切に、子ども一人ひとりのもっている良さや可能性を引き出せる保育者でありたいものです。保育の専門家としての自分の力を確かなものにし、どの子どもにも確かな生きる力の基礎を培うことのできる保育者になれるよう、保育者としての姿勢を磨き続けていきましょう。

そのためには、チェックシートを活用しながら、乳幼児期における教育及び保育の基本に常に立ち返ると共に、自身の研修課題を明確にし、資質・指導力を向上させていきましょう。今自分にとって求められる力を自覚し、日々の実践を積み重ねていくことができるよう、チェックシートを活用し継続的に取り組んでいきましょう。

## (2) 組織力の向上に向けて

保育者一人の力には限界があります。多岐にわたるニーズに一人で対応することは難しいことです。保育者一人ひとりがそれぞれの持ち味を生かしながら、得意分野を生かし、園全体として教育及び保育を行っていくことで、多様なニーズに応えることが可能になっていきます。個性あふれる保育者同士がコミュニケーションを図りながら、チームの一員として協働関係を構築していきましょう。

そのためにも視野を広め、保育者としての専門性を磨いていくことが大切です。園でどのような園内研修を実施するかは、保育者一人ひとりの力量形成に深くかかわってきます。保育者間で学び合う関係や職場の雰囲気は、保育者としての成長に不可欠です。また、園全体の教育・保育の向上に繋がっていきます。限られた時間の中で成果を上げるためにチェックシートを用いて見えてきた研修課題に応じて内容や方法を工夫、改善していこうと考えています。保育者間でお互いの課題を理解し、協力し合いながら専門性の向上を図っていきましょう。

高知県教育・保育の質向上ガイドラインを参考に作成

# 2021年度 わげん保育園 相模原駅前 自己評価

## 1. 保育士の自己評価

今年度は、まず「乳幼児期の教育・保育の役割」「乳幼児期の発達の特徴に合わせた保育と、保育者に求められる資質・指導力」はどのようなものかを確認した。

その上で「乳幼児期にふさわしい生活を展開するために」「一人ひとりの発達に応じた指導を行うために」「乳幼児理解に基づく環境構成を行うために」何が必要であり、何が大切であるのか、また、「保育者としての資質・指導力を高めていくために」何をなすべきかを考えた。

そして、個々に保育者としての自身の実践に向かう姿勢を評価する①「自己課題発見シート」、基礎・中堅・リーダー・管理職に分類して、各ステージに求める姿を示した②「ステージ別の資質・指導力チェックシート」を活用して、自ら課題を発見する形で自己評価を実施した。

個々の保育者が自己評価をした後、③「自己課題発見シート」に自身の強みや成長、弱みや課題を記し、④「自己目標共有シート」に何をどのように取り組み、どのようにしたいのかを考えて目標を設定した。

※別紙①②③④のシートと「2022年度 自己目標共有シート」参照

## 2. 保育者の自己評価を受けての考察と来年度への課題・目標

### [ 考察 ]

上記の①～④のシートを使い、保育者それぞれが乳幼児期における教育及び保育の基本に立ち返り、自身の課題を明確にすることができた。

自身で目標を設定し、全員で個々の目標を共有することで、それぞれの持ち味を活かしたり、互いの目標への取り組みに声を掛け合ったり、また、一緒に取り組んだり進めていくことができるのではないかと考える。そして、それをきっかけに園全体の保育の向上、改善に繋げていきたい。

また、具体的には、2022年度11月にもシートを再度利用して、個々の実践を再確認し、今回設定した目標の進捗状況と取り組み方法等、また、次に向けた目標を設定できるようにしていく。1年を通して実践の振り返りと目標への取り組みを続け、2022年度末には2023年度への目標を設定できるように進めることで、継続的に取り組めるようにしていきたい。

### [ 課題 ]

これまで、個々で毎日の保育を進めることには集中してきたが、職員同士で学び合うという雰囲気や関係を作ることができていなかった。

この点を改善し、園全体で取り組み、保育の質を向上させることが課題であると考えます。

### [ 目標 ]

保育者間で、お互いの課題を理解し、協力しながら専門性の向上を図ると共に、問題意識をもって園内研修に臨み、保育者間で学び合う職場の雰囲気や関係を作っていく。

## 2022年度 わげん保育園 自己目標共有シート(職員自身が保育を振り返り設定した目標です)

	自己課題発見シート	キャリアステージシート
	保育者の援助	園務分掌
1	子ども達が起こしている行動を一度冷静に考え、その上で発達に合う声掛けを行っていく。上手く行かなかったら一度振り返る。	相手に仕事を任せる時は、分かりやすく伝える。また、相手がどこで躓いているかを理解する。
	遊びの環境・保育者の援助	援助・自己研鑽
2	一人ひとりをよく見て、発達を観察し、計画的に保育を行う。	自らの実践を振り返り課題を発見し、専門職としての職務を果たす。
	保育の振り返り	援助
3	保育内容を振り返り、子ども理解を深めながら、信頼関係を構築をしていきたい。	個々の家庭に合った援助を担当同士で意見を出しながら、より良い子育てをサポートしていく。
	遊びの環境	職員間の連携
4	子どもの興味・関心・育ちを理解し、子どもが様々な経験をできるような教材研究、準備をしていく。	他クラス、クラス間、それぞれと小まめに連携を取り、見通しをもって保育を進めていく。
	保育の振り返り・遊びの環境	職員間の連携
5	日々の保育の振り返りを大切にしながら、環境に工夫を取り入れた保育をしたい。	後輩保育者の思いや気持ちに寄り添いつつ、指導や助言をしていきたい。
	遊びの環境・保育者の援助	保護者への支援
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な素材を使って感触の楽しめる制作を行ったり、制作した物を使って遊びに繋げていけるように考えていきたい。</li> <li>・着脱などでも、自分のペースでできるよう時間を確保したり、優しい言葉掛けで安心できる環境作りをしていく。</li> </ul>	登降園の際に、保護者の表情や変化に気付いて言葉掛けをしたり、連絡帳などに悩みを記入している時には、口頭で丁寧に支援ができるようにしていく。
	保護者への支援	職員間の連携
7	子どもだけではなく、保護者との連携を大切にしておこなうようにしていく。	保育者間での報・連・相を密に行う。
	保育の振り返り	自己研鑽
8	日々の保育を振り返り評価・反省し、次に活かせる工夫や目標を担当間で共有する。そのために、5～10分の時間を確保し、意見交換できるよう調整していく。	主任と相談し、園内研修の計画・立案・実行し、職員の質の向上につなげていく。
	保育者の援助	自己研鑽
9	子ども達の姿・発達を考え、捉えていく中で、知識を深め、それを周囲にも発信しながら実践に移していく。	身に付けた知識や技術を生かし、実践を高める工夫をする。
	子どもの人権	保護者への支援
10	イヤイヤ期の子どもに「〇〇したら〇〇できるよ」と励みになるような声を掛けていく。	送迎時には話しやすい雰囲気を作って信頼関係を築いていく。
	保育者の援助	関係機関との連携
11	子ども一人ひとり個々に寄り添い保育を行っていく。	他の職員の研修資料や自己の情報収集をもとに、知らないことの学びを深めていく。